

尾道民報

日本共産党

市議会議員団

週刊議会報告

【発行】

岡野長寿

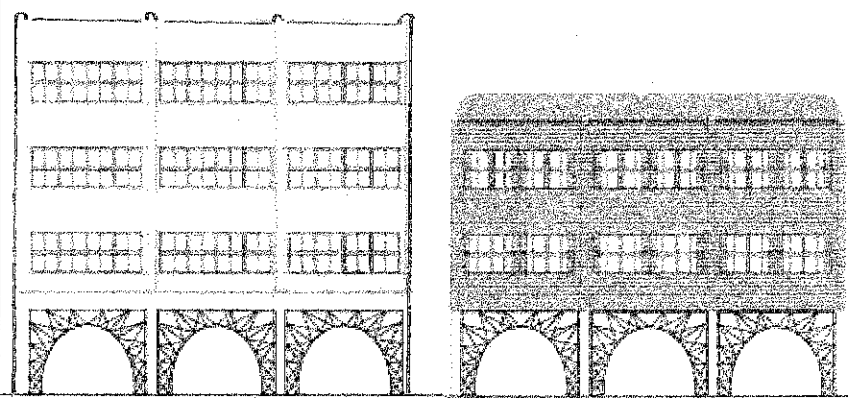
(0845-22-2596)

三浦とおる

(0848-48-5044)

土堂小の耐震化、こうすればできる

- 岡河先生（建築士）の講話に約30名が参加 -



三浦とおる市議は3月7日（土曜日）に行われた「土堂小学校仮設校舎・統廃合についてのお話会」に参加して「土堂小学校は本当に危険なのか。耐震化工事はできないのか」について、建築士で広島大学で教鞭をとっておられる岡河先生に来ていただき建築士としての専門家から見た現状の土堂小学校の耐震性及び耐震工事のあり方についてのお話を聞くことができました。岡河先生の提案された耐震工事を含めて市民の皆さんに報告します。

岡河先生は、土堂小学校の現状を設計士の立場から詳しく説明をされました。Q&Aの形式で説明されたことを紹介します。

Q①土堂小学校は耐震性能がないので倒壊の危険があるのですか？

A①古いコンクリート建物は今までの地震に耐えてきて今に至っています。備えなくてはならないのは震度7以上の直下型地震です。そのためには耐震補強をすればいいのです。居ながら耐震工事もできます。

Q②土堂小学校は耐震改修ができますか？

A②できます。土堂小学校に耐震ブレース補強をすれば済む話です。左の図のようにブレース補強をして、デザインを東側校舎のようにして全体で一感を持った耐震補強をすれば

現在の校舎のデザインを使った耐震化工事を行うべきである（岡河先生案）

Q③土堂小学校のように古いコンクリート建築物は耐震補強しても耐久性がないとも言われています。耐震補強をしても長く使うことが本当にできないのですか？

A③コンクリート建築物は古い新しいではなく、コンクリートの強度が十分かどうか、鉄筋が内部で錆びるようなひび割れが入っているかどうか、建物の耐久性に関係してきます。土堂小学校にはそのようなひび割れや内部の鉄筋の錆びによるコンクリートの剥がれは見受けられません。耐震補強を行えば十分に今後でも使用していくことができます。

Q④土堂小学校の現在の校舎のコンクリートの強さはIS値にばらつきがあります。強さは十分にありますか？

A④昭和12年建築の東校舎と昭和32年増築の部分については強度的な問題はありません。しかし、北校舎の4階部分の11か所のサンプルの中で2か所についてはコンクリート強度が極低強

度という値になっていますが、鉄板補強を行えば問題はありません。北側校舎に限って言えば4階部分を減築で取り壊せば耐震化として一番良いと考えられます。耐震化工事での減築と言う手法は一般的に良く行われています。

Q⑤耐震補強には大きなコストがかかるのと聞いています。本当のところはどうなのでしょう？

A⑤同規模の学校の耐震補強例から考えると、耐震補強工事の費用は1億円から6千万円費用が掛かっています。耐震補強工事の場合には国や県から補助が出るので尾道市の負担は三分の一で済みま

「市民病院の維持管理はしっかりと」 — 岡野長寿市議が予算委員会で訴え —

3月5日の予算特別委員会、岡野長寿市議は市民病院会計の維持・管理・修繕費用に関して質疑を行いました。

岡野市議は、新たに医師が確保され、市民病院会計予算が好転していることを評価しつつ、必要な修繕予算などが削られていないかという観点から質疑を行いました。

「昨年10月に漏電などをチェックする電力監視モニターがダウンしたとの情報が寄せられたが、耐用年数をすぎているのであれば更新すべきではないか」と岡野市議が質し、「更新には約1,900万円かかる、現在は復旧しており、適正な管理を行う」と答弁がありました。

「パソコンが旧式は大丈夫か？」また、岡野市議はパソコンについて「ソコンについても質疑、理事者は電子カルテを令和3年に導入し（予算4億円）その際に更新する旨の答弁を行いました。」

岡野市議は、アームライト、避難誘導灯、非常灯、エアコンのフィルターなど、必要な修繕費用を確保し、市民が快適に病院を利用できるように、公的病院の使命を自覚して、しっかりと予算を確保すべきと結びました。

今年の夏は、ICU・HCU(集中治療室)等で「冷房が効かない」なんてことがないようにしよう